

(別紙5)

整理番号 2018P-044
補助事業名 平成30年度 国際交流の推進活動 補助事業
補助事業者名 公益財団法人ジョイセフ

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

資源循環型社会に向けて自転車リサイクルを推進するとともに、現状の課題を調査し、保健ボランティアの技能研修を行い、母子保健を含む保健医療サービスの普及と向上を目指し、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

https://www.joicfp.or.jp/jpn/wp-content/uploads/2019/05/H30_JKAsiryou.pdf

1、【プロジェクト地区の現状小規模調査（調査地区7箇所）】

プロジェクト地区の現状調査を行うために、調査リーダーのサポート役である保健ボランティアの調査能力を統一するために、現地の行政機関の協力で事前に調査能力研修を実施した。その上で、調査地区7箇所において約500名の住民を対象に以下の内容で調査を行った。

目的：ザンビア共和国コッパーベ
ルト州プロジェクト地区に
おいて、女性の妊娠や出産、
避妊、思春期に関わる知識や
意識などの状況を把握する
ための調査を実施

実施期間：2018年5月6日-19日
(14日間)

対象地区：ムポングウェ郡4地区
(ムウィヌナ、チサパ、
ルアंकニ、ルアンシンバ)

カピリ・ンポシ郡3地区(カサンバ、ンコレ、カクル)

調査員：14名(調査サポートの保健ボランティア10名含む)

調査対象実施者：494名

-3歳未満時を持つ母親 140名

-ヘルスセンターを利用する女性(出口調査) 140名



調査員の調査能力統一のため、
事前に調査能力研修を実施

(別紙5)

-15-19歳の若者 男64名、女63名

-保健医療従事者 13名

-男性 64名

-コミュニティヘルスワーカー

(SMAG、PE) 10名

調査方法：質問表を用いた調査員による

聞き取り調査、個別インタビュー

調査項目(内容)：

-産前健診(回数、内容)

-出産場所

-妊娠中の危険な兆候の知識

-産後健診(回数、内容)

-男性の産前健診、危険な兆候に
ついての知識、男性の役割

-避妊についての知識、避妊サービス
へのアクセス

-思春期の性の情報入手方法

-月経について



調査能力研修を受けた
調査員による聞き取り調査、
個別インタビュー

2、【再生自転車の海外譲与及び人力発電自転車による生活環境向上】

◆再生自転車の海外譲与

平成30年 8月7日 タンザニア家族計画協会向けに、日本より分解自転車400台を
出港。9月7日ダルエスサラーム港到着。

9月14日 ガーナ家族計画協会向けに、日本より分解自転車400台を出港。
11月1日テマ港到着。

10月19日 アフガン医療連合向けに、日本より分解自転車400台を出港。
パキスタンカラチ港経由で11月29日ジャララバードに到着。

11月26日 ザンビア家族計画協会向けに、日本より分解自転車400台と
人力発電自転車10台を出港。南アフリカダーバン港経由で
1月29日ンドラに到着。

平成31年 1月10日 カンボジア・リプロダクティブヘルス協会向けに、日本より
分解自転車400台を出港。1月25日シアヌークビル港到着。

◆人力発電自転車による生活環境向上

平成30年 7月～9月末日 人力発電自転車10台分の開発制作

昨年度同様、バッテリーのみを入手し、発電充電キットの開発作業を実施。

10月9日 開発制作完了の人力発電自転車10台分の検収作業活動
(再生自転車海外譲与自治体連絡会ムコーバの加盟自治体の参加を得て) 実施

11月26日 ザンビア向けに通常の分解自転車とともに出港。南アフリカダーバン港経由で1月29日ンドラに到着。

(1) 成果

1、【プロジェクト地区の現状小規模調査(調査地区7箇所)】

調査結果:

- ・ 産前検診4回を受診した女性の割合は、全体の7.1%と低く、また妊娠初期となる14週目以内に受診する妊産婦の割合は、全体の3.6%と低い結果となった。
- ・ 産後健診(6日以内)を受診した妊産婦は、全体の37.1%と低く、また産後健診を全く受けていない妊産婦は、全体の4.3%となった。
- ・ 施設分娩は、全体の56.4%と低い数値であり、妊娠中の危険な兆候の知識も比例して低い。施設分娩の重要性を理解している男性の割合も全体の28.1%と低く、母子保健推進員や若者ピア・エドゥケーターの積極的な啓発活動や保健医療従事者の質のよい保健サービスの提供が求められる。
- ・ 45%の男性が、パートナーが産前健診・産後健診・家族計画を積極的に受診すべきだと回答した。また、26.5%の男性が、「パートナーの妊娠中に重労働をさせるべきではない」、「出産へ向けた準備を支援すべきである」と回答した。この数字からも男性の意識の低さが見られ、男性を巻き込んだ啓発活動が求められる。
- ・ 上記の調査結果に基づき、今後のプロジェクト活動の実施において、産前健診、産後健診、施設分娩、家族計画、出産計画、男性参加や月経などについての住民の意識や知識の向上あるいは住民の行動変容に向けた戦略づくりを行った。

2、【再生自転車の海外譲与及び人力発電自転車による生活環境向上】

◆再生自転車の海外譲与

(別紙5)

途上国の農村地域において保健医療従事者が駐在している診療所への遠距離のアクセスが依然として大きな課題になっている。そのために、よほど体調が悪くならないと診療所へ行くという決断がされない。結果的に手遅れになり命を落としてしまう。こういうケースは今でも多くある。



再生自転車の海外譲与事業は、単なる交通手段の課題を解決するだけではなく、住民とりわけ女性たちの保

健に関する情報や知識を伝達するために、各村々を巡回し啓発活動を実施する保健ボランティアの貴重な足にもなっている。緊急な事態の際には、女性を診療所に搬送するのにも活用されていることから、「命を救う足」と呼ばれ、大きな役割を果たしている。



再生自転車はもともと日本国内で撤去された放置自転車を整備し、安全かつ稼動確認をされたりサイクル自転車である。近年、各自治体の国内の放置自転車対策事業が順調に進められ、反面、海外譲与する日本国内の再生自転車の数量が減少していることから、本年度の海外譲与事業も各国宛の寄贈数量をやむなく400台に調整し、5カ国の計2000台の再生自転車を寄贈することができた。

◆人力発電自転車による生活環境向上（ザンビア向け）

保健ボランティアのボランティア活動の活性化のために、ボランティアのインセンティブを高める役割を果たしている人力発電自転車の寄贈は、本年度で5年目を迎え、昨年度同様の大容量の新バッテリー発電充電キットを開発し10台分を寄贈した。

現地では、保健ボランティアの啓発活動がより活性化につながっただけではなく、夜間の出産介助時に明かりが使えるよう白昼時に人力発電自転車で電気を蓄積し、出産待機ハウスなどの保健施設でも明かりを活用できるようになった。



出産は夜間に多いことから、夜間に必要な電力を確保するために、明るいうちに人力発電自転車で電気を蓄電する

保健施設に隣接する出産待機ハウスでも LED ランプに明かりが灯り、妊婦さんに快適な環境を提供している。



◆30周年記念誌の編集印刷

再生自転車海外譲与自治体連絡会（ムコーバ）は平成元年に設立され、以来途上国の農村地域で活躍する保健医療従事者に再生自転車の海外譲与を実施してきた。現地では保健施設へのアクセスの環境が不備のため、保健に関する知識や情報などを住民に伝達するための交通手段、あるいは診療所へ住民を搬送する貴重な足として自転車が活用されている。

「再生自転車海外譲与自治体連絡会～30年のあゆみ～」報告書は30年間にわたり複数の自治体と連携実施してきた本事業の歩み、実績および国際貢献や事業の発展をまとめた。

2 予想される事業実施効果

住民の保健医療サービスへのアクセスを増やすには、住民の保健意識の向上と保健医療サービスを提供する医療従事者の技能や医療知識の向上がなければ、活動の持続発展が期待できない。

村の女性たちの命を守るために、保健ボランティアが各村々を巡回し、女性たちが必要とする妊産婦保健や家族計画に関わる情報や知識の伝達、および男性の理解を求める啓発活動を実施することを通じ、住民の保健意識向上が見られる。そして途上国の保健ボランティアが効率よく各村々を巡回する活動を支え、農村地域に住む女性たちの命と健康を守る役割を果たしているのが再生自転車である。

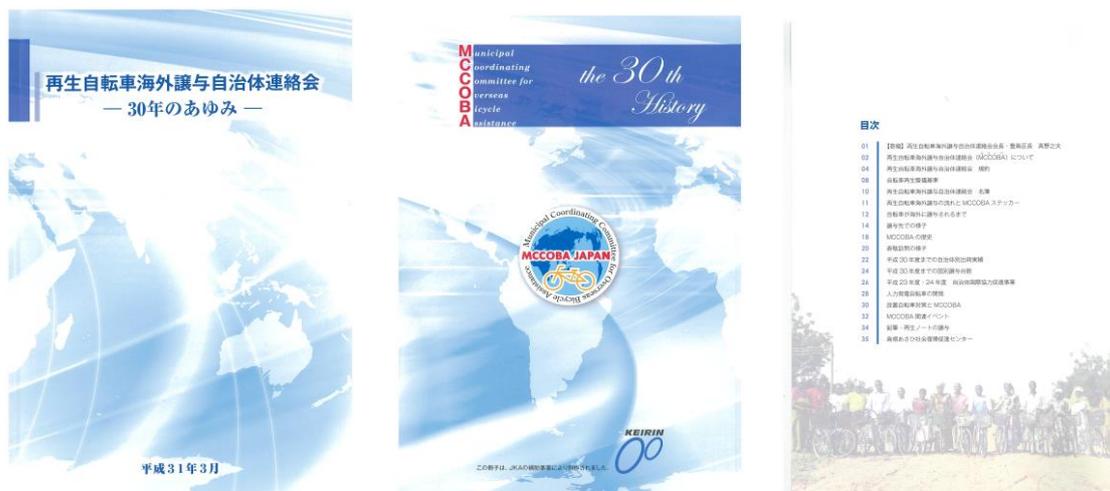
(別紙5)

本事業は、保健医療従事者の再研修支援を強化し、かつ途上国の保健ボランティアが村人に対する啓発活動を効果的に実施する活動を支え、その結果、女性たちの健康に関する知識や意識が向上し、また女性たちが保健医療サービスへのアクセスが増加することが大いに期待される。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

再生自転車海外譲与自治体連絡会～30年のあゆみ～



(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

無し

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人ジョイセフ(コウエキザイダンホウジン ジョイセフ)
住 所： 〒162-0843
東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館
代 表 者： 代表理事 山口澄江(ヤマグチ スミエ)
担 当 部 署： 市民社会連携グループ(シミンシャカイレンケイグループ)
担 当 者 名： プログラム・アドバイザー 簡野芳樹(カンノ ヨシタツ)
電 話 番 号： 03-3268-5877
F A X： 03-3235-9774
E - m a i l： ykanno@joicfp.or.jp
U R L： <http://www.joicfp.or.jp>